

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000114		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「箱根山」(西棟)		
所在地	〒029-2207 岩手県陸前高田市小友町字猪森77		
自己評価作成日	令和6年8月1日	評価結果市町村受理日	令和6年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人1人と向き合いながらその人らしさを大切にして生活が送れるような雰囲気作りに取り組んでいます。家庭菜園にも取り組んでおり、季節の野菜を植え入居者の皆さんと一緒に収穫し、季節を感じ取って頂ける様に努めています。年間の三大イベントである夕涼み会・敬老会・クリスマス忘年会の他にも月ごとにイベントを企画し、共同生活の楽しみを実感してもらえるように努めています。リビングや脱衣場には床暖房、全居室にはエアコンを設置しておりとても暖かく全面バリアフリーで安心して過ごせるようになっています。又、当施設は高台に位置しており、リビングからは一面に広がる田園風景を見ることが出来、田植えの時期から収穫の時期までの色の変わり目を見て季節を感じ取ってもらっています。法人の医療・福祉に関する総合的なバックアップがあり、定期的な研修やeラーニングも取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、浸水区域にかからない高台にあって、眼下には田園風景が広がるゆったりとした快適な環境に囲まれている。事業所では、医療法人として災害や感染症への対策、虐待防止等について各委員会の主導による安全対策が図られ、定期的な研修にはeラーニングを導入するなどの体制が確保されている。また、同じ法人のグループとして医療機関や同種事業所との連携が介護の実践に活かされ、一人一人のその人らしさを大切にした生活が送れるよう介護サービスの提供に努めている。コロナ禍による感染症の拡大防止のため、未だ日常的な地域との交流の機会が少ない状況にあるものの、近隣の保育所園児が毎月園だよりを届けに来たり、小学校児童との交流を続け、また、町の文化祭に作品を出展するなどの取り組みを行っている。今後も地域との繋がりを大事にしたいとの意欲があり、地域での役割を担いながら介護の質の向上に期待が持てる事業所である。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム「箱根山」（西棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに事業所の基本理念である『「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」一人一人のその人らしさを大切に生活を送る』を掲示し職員間で共有している。新しい職員が入ってきた際には、その都度基本理念を説明し日々のケアで意識してもらう様に対応している。	事業所の理念「ゆっくり」、「いっしょに」、「楽しみながら」は、同じ法人事業所の理念を踏襲しており、職員にも浸透している。管理者は、介護にあたる姿勢として適切であり見直す必要はないと考えている。理念を踏まえて、管理者から毎月のミーティングで職員にも伝える機会があり、職員は個々の経験年数や職制に応じて設定したそれぞれの目標の達成に向けながら、理念の実践に反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつではあるが地域の交流は持てる様になってきている。近隣小学校では、授業の一貫で児童が来訪し昔の遊びや折り紙等を利用者様と行き交流している。又、保育所の子供達による虎舞の披露をして頂いたり、毎月の保育所だよりを届けに来てくれており、玄関先ではあるが利用者様との交流を図っている。	コロナ禍で様々な制約があるものの、毎月近くの保育所から園児が園だよりを届けにきたり、園児による権現舞(虎舞)を披露してくれる機会がある。また、小学校とは4年生20名程度が来訪して一緒に昔の遊びに興じながら交流している。災害時など有事の際の地域の協力体制については充分ではない状況があり、これからの課題として取り組みたいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのお便りを近隣の小学校や保育所、駐在所、消防署、委員の方々に配布している。又、小学校や保育所からの慰問やふれあい体験等の受け入れを、感染症の感染状況を確認しながら可能な限り行っている。交流を通して認知症の人の理解や支援の方法を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の感染状況を考慮して運営推進会議は、集合開催は行っていない。書面開催にて別紙で意見や感想を頂き、助言などを業務に反映させている。	コロナ禍を初めとした感染症拡大防止のため、現在も書面での会議が継続されている。各委員に書面や施設の広報紙を持参して意見・要望を伺っており、保育所や小学校との交流などに良い評価をもらっている。同じ法人の事業所も書面開催が続いているが、集合形式での会議開催について、法人内で検討するなど前向きに検討したいとしている。	地域における交流機会の拡大や災害時における地域の協力などの課題対応のため、委員と顔を合わせた対応ができるよう集合形式による運営推進会議の開催について検討されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課職員や生活保護の担当職員と連絡をとり、相談や報告、メールのやり取りをし連携を図っている。	市からの情報提供はメールや電話が多いが、運営推進会議の資料を届けた際などに助言をいただくこともある。生活保護担当者や災害対策関係の担当者が来訪することもあり、また、地域包括支援センターとの連絡も円滑に行われており、協力関係が築かれている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム「箱根山」（西棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現時点では身体拘束をしている利用者様はいない。転倒防止の面から日中居室で過ごしている際には、足元センサーを設置している利用者様が数名いる。施設の研修会への参加や参加できない職員は、動画視聴を行っている。スタッフミーティングでは身体拘束の事例を話し合っている。又、玄関の施錠は夜間以外は施錠行わず開放している。	法人として指針を策定し3ヵ月毎の委員会、研修会を開催している。季節の変わり目などに不穏な状況が見られる利用者があり、玄関に設置したセンサーで把握することがある。接遇委員会を中心に言葉遣いには特に注意を払っており、お互いがチェック合って、良かった事例を共有するとともに、e-ラーニングでの学習の機会を設け、身体拘束の無い支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳を守り、支え合うことが虐待防止につながると思っている。法人内の虐待について研修への参加や部署内での研修を行い職員間で話し合っている。（今年度は6月に実施、次回は1月の予定）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者様が1名、生活保護を受けている利用者様が1名いる。法人内で開催される権利擁護に関する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者御家族が不安に思っている事や疑問に思っている事を伺って、出来るだけ解りやすく説明し不安解消へ努めている。又、ホーム内の見学を行って頂き、他利用者様の様子も見て頂いている。利用料金が改定した際には、御家族来所字に説明をお渡ししている。遠方の御家族には一度入電し説明して郵送している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人のホームページの「問い合わせ」で意見や要望を伝えることが出来るようになっている。又、面会時や御家族様からの電話連絡があった際、意見や要望を聞くように心掛けている。	以前、家族アンケートを行っていたが、コロナ禍で面会に制限があるため、現在は中止している。通院の際、家族等から意見を伺う機会があるが、感謝の言葉が多く、不安に思うこと、困っていることの話聞くことが無い。家族等との日常会話は頻繁に行われており、信頼関係ができています。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム「箱根山」（西棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや毎月開催しているスタッフミーティング、個別面談等で各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎日の申し送りや毎月のスタッフミーティングで職員からの意見・提言が出されており、利用者の散歩途中に休息するベンチ設置、日当たりの強い窓へのグリーンカーテンの二重設置などが実現している。職員との個別面談の機会もあり、研修や資格取得の希望に止まらず、家庭の状況など個人的な話なども相談できる仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇や産休・育休等がとりやすい環境づくりに努めている。又、介護福祉士等国家資格を取得した場合には、給与の支給額に反映される仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で開催される定期的な研修会への参加、個々にeラーニングによる学習に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、小規模事業所の会議に参加。他部署での活動や取り組みを聞くなど意見交換を行い、良いと思う取り組みは取り入れサービスの質の向上につなげている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前までの関係機関からの情報収集や直接ホーム見学に来た際、御本人様の話や御家族様からの要望を傾聴し何が必要かどの様に過ごしたいか等、職員間で話し合い安心したサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に御家族と面会をし不安なことや要望を確認しながら対応している。入居後も受診の結果報告、面会時に意向確認を行い必要に応じ電話連絡をする等、定期的に連絡を取って信頼関係の構築を図っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム「箱根山」（西棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に実態調査を行っている。又、居宅ケアマネの情報に基づき御本人や御家族が必要としているサービスを理解・把握し他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームを自宅と捉え、個々の生活歴や御本人を尊重し出来る事を見だし、家事や物作りを職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の連絡表にて写真を添えながら生活状況を報告している。可能な御家族様には病院受診を依頼し、健康状態を共有している。季節の変わり目には御家族に衣類の入れ替え等を依頼し行って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に御本人との関係を記録してもらい把握に努めている。又、ドライブで地元の景色を見たり、新聞から地元の話の情報を収集したり、インターネット動画で地域のお祭りを視聴して頂き地域を思い出してもらえる様に工夫をしている。	家族等からの雑巾や手作りのポプリ、果物などの差し入れ、遠くの親戚や知人の面会など、馴染みの人や物と触れ合う機会がある。新聞記事を参考に祭りや花の見頃に訪れるなどのドライブにも力を入れている。また、定期的に来訪する理容業者の方が新たな馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	情報収集し共通の話題を通し関係を築いて頂いたり、家事や行事を一緒に行うことで良い関わりが持てる様に支援している。トラブルにならない様に席の配置や利用者様同士の関わりが難しい場合は職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も今後に対しての不安などいつでも相談して欲しい旨をお伝えし、必要に応じてこちらからも連絡する等フォローアップに努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の実態調査や入居時に御家族様から生活歴を伺いそれを基にしながら普段の会話などを通して移行把握に努めている。表現が難しい場合でも表情や動作から見極めて検討している。	入居前に管理者とケアマネが訪問調査を行い、利用者の生活歴や思いを確認している。東棟の2人を除いてほぼ会話が可能であり、会話の中から希望することを聞き出している。2人についても、嫌なこと、避けたいことを身振りで確認できるので、無理強いすることの無いように努めている。記憶を辿っての干し柿づくり、梅シロップづくりなど、本人の思いに沿った対応ができています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や利用している事業所を訪問し生活の様子をお伺いしている。御本人様や御家族、ケアマネージャーからの情報を収集し共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、変化を見逃さない様になっている。変化に対しては職員間で情報共有し現状把握に努めている。定期的に看護師に健康チェックをしてもらい心身状態の把握をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は新規利用者様は1ヶ月、その他の利用者様は3ヶ月毎にカンファレンスを行いケアの見直しを行っている。御本人様の日常生活での言動や意向を大切に、御家族様の意見を取り入れて介護計画を作成している。毎月のモニタリングや理学療法士による身体状況の評価もあり介護計画へ反映されている。	新規利用者は1ヵ月の暫定プランとし、以降3ヵ月ごとに見直しを行っている。プランには医療関係者からの助言を盛り込むなどして居室担当者が原案を作成し、ケアマネが確認した上で職員全員によるカンファレンスを行う手順となっている。本人、家族にも説明し、了解を得ている。家族からの意見は少ないが、かつて身体機能の低下を危惧して、運動面での希望が出されたことがあった。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言葉や活動状況の記録だけでなく、職員間で共有したい情報は申し送りノートに記載している。ケアに関しての気づきや実践結果等必要に応じて、朝の申し送りでカンファレンスを行い介護計画の見直しに努めている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様の要望をお伺いし外出を勧めている。御家族様の状況に応じて買い物代行や通院介助など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生が授業の一環で訪問したり保育園児がお便りを届けたり、虎舞を披露する様子を見学する等交流を持つ事が出来ている。成年後見人制度を利用している利用者もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様や御家族様の希望されるかかりつけ医を受診している。協力医療機関を受診する場合は職員が対応し、他かかりつけ医を受診し御家族様が付き添う場合は経過報告を記載した連絡表をお渡しし受診して頂いている。	協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が10人あり、時間調整や職員による受診支援が行われている。他のかかりつけ医については家族対応となっているが、家族が遠方の場合などには事業所での受診支援を行なっている。バイタルデータの提供など医療機関との協力関係ができており、適切な医療が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が健康指導を行っている。体調不良時や緊急時など相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、病院とホーム間で情報提供を行っている。又、必要に応じ電話での情報交換を行い、円滑に治療できる環境づくりに努めている。又、御家族にも連絡し状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良やADLの低下が著しい場合などは早期に御本人様、御家族様と終末期について話し合いを持ち情報の共有を行っている。母体である老人保健施設やクリニックへの入所、入院を希望する方が多く、相談員と連絡を取り合う事も多い。	入居の際、本人や家族に対し事業所で看取りを行っているが、急変時には救急搬送により医療機関に入院し、また、終末期においては同じ法人の他の施設でケアすることになることを説明し、了解を得ている。同じ法人内に対応ができる施設があることが大きな強みであり、家族等からの信頼にも繋がっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム「箱根山」（西棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応ファイルの内容を把握し早急に対応できるようにしている。事故発生時は、その時の状況にもよるがマニュアルをもとに動いている。訪問看護師からの指導や研修動画の視聴等で実践力の習得にも努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間を想定した火災訓練を行っている。又、運営推進会議等で地域、消防、御家族との関係性を深め協力を求めている。	3月には夜間想定で夕刻に避難訓練を実施し、10月には同じく火災発生を想定した総合訓練を実施する予定となっている。ハザードマップ上、浸水地域から外れており、施設自体が高齢者の指定避難場所に指定されている。自家発電装置や食料品の備蓄なども万全であるが、近隣に民家が少なく、地域住民の協力を得ることが課題であるものの、万が一の場合は、法人として近隣の他事業所の支援を受ける仕組みがある。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃からも声のかけ方や言葉遣いに気を付けて対応している。利用者様の訴えを傾聴しながら指示をする様な声掛けにならないよう心掛け、出来ない事だけに目を向けず出来る事を伸ばしている様に対応している。	利用者の下の名前に「さん」付けして呼ぶなど、一人一人を尊重した言葉遣いに気を付けている。また、個人情報の管理には特に気を付け、本人の写真の広報紙掲載等については、事前に同意を得て掲載している。食後に棟内廊下の手すり拭きを自分の日課としている方もおり、利用者自身の自発性、思いの尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人のペースを大事にし、日常生活の中で役割を見つけながら生活できる様なケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせるのではなく、利用者様一人一人のペースに合わせた対応を行うように心がけている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節をお伝えし、季節に見合った洋服選びを一緒にに行い着用してもらっている。定期的に馴染みの理髪店に來訪して頂き、カットしてもらっている。又、カット以外でパーマや髪を染めるといった希望があれば御家族様にも協力を得て対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立作りを心掛けている。又、利用者様に一緒に献立を考えてもらい、献立に対してどのような食材が必要なのか等一緒に考え取り組んでいる。おやつ作りを一緒にに行ったりバイキング形式や季節ごとのイベント(流しそうめん、サンマ焼き、芋煮会)等食べる楽しみを持って頂いている。食事の盛り付けやテーブル拭き、食器拭き等可能な限り利用者様には手伝って頂いている。	週毎に職員が旬の食材を取り入れた献立を作成して調理し、提供している。小鉢への盛り付け、食器洗いなど是可以できる方にあることをお願いしている。家庭菜園で育てた野菜を使ったり、食べたいものを聞きながら小豆ぱっとうなどを味わっている。10月から外部の業者から冷凍の副菜が届けられ、職員はご飯とみそ汁だけを用意して提供することとなる。管理者は、新たに生み出される時間と労力を利用者に対する支援の充実に活かしていきたいとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録に残し把握できるようにしている。水分量が少ない場合は、好みのものを提供し水分強化している。食事に関しては職員が1週間の献立を決めているがその際、肉や魚、野菜が偏らないように工夫しながら提供出来る様に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。指示が入りづらい利用者様は職員が付き添い対応している。義歯の利用者様は夕食後の口腔ケア後に義歯を洗浄剤に浸けて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄状況の記録や確認をしている。又、定時のトイレ誘導の声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用して、適時の誘導を行っている。日常的に水分を適量摂取してもらうなど、便秘予防には特に配慮している。入居前には紙パンツ着用で頻回にトイレに行かれてた方が、入居後、職員との関りが増えたことで解消され、布パンツへと改善され、費用負担の軽減にも繋がった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中に乳製品の提供、飲み物にオリゴ糖を入れ便秘予防をおこなっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム「箱根山」（西棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調やその日の気分も考慮して無理なく入浴してもらう様にしている。入浴時には入浴剤を使用し香りや色彩で入浴することを楽しんでもらえるように努めている。冬至には湯船に柚子を浮かばせ香りや目でも楽しんで頂ける様に努めている。	週2回、午前午後、1日6人のペースで入浴時間を確保している。入浴を嫌がる方もいるが、声掛けや時間、日にち変えるなど柔軟に対応している。入浴剤の使用もあり、季節に応じて柚子湯も提供し、利用者は職員とのコミュニケーションの場として、あるいは歌を口ずさむ場として入浴を楽しんでいる。湿疹など皮膚の状態などを確認したいときに異性を敬遠される利用者もあり、同性職員や看護師による確認を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に合った入床時間を考え安心・安全に入眠できるように工夫している。又、睡眠の質向上を目的とし温度湿度計を確認しながらエアコンを使用し温度調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に内服して頂くためにも、職員間で副作用等の情報共有を行っている。又、変更がある際は利用者様の変化に速やかに対応出来る様に訪問看護師や系列のクリニックと連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意な活動を職員と一緒にいき気分転換を図っている。又、生活歴から出来る作業でも利用者様が「今日は出来ない作業だ」と感じている場合がある為、その際は可能性を広げる事を目的として創作活動を促している。役割としては分担があり、手すり拭きや食器拭き、洗濯干し洗濯たたみ等それぞれが出来る事を手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で制限もあり、積極的に外出をする機会が減少していたが、徐々に外部との交流も増え外出行事も計画できる環境となった。感染対策は継続中ではあるが家族や地域の方々の協力のもと、少しずつではあるが利用者様への支援が増えてきている。	感染症の拡大防止に配慮しながら、保育所園児の来訪時に屋外に出たり、天気の良い日には、外気浴を兼ねて施設周辺を散策している。故郷訪問は不穏になる方もあるため、慎重な対応としている。一時帰宅、外泊についてはまだ制限があるが、種山高原や気仙沼大島へのドライブなどの外出支援が可能になってきている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム「箱根山」（西棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお小遣いは職員が管理しておりホーム内の金庫預かりとトラブル防止に努めている。利用者様が必要な物は御家族様とも相談を行いながら、希望に沿える支援を心がけている。又、物価高騰も考慮しながら消耗品は職員間で相談しながら品定めをし対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があればいつでも対応しており、電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。お正月には毎年ホームから御家族様に年賀状を送っており、御自分で書くことが可能な利用者様には書いて頂くよう促しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居室入り口等に季節ごとの飾りを飾ったり、リビングには1ヶ月毎に壁面飾りを変更しながら温度・湿度はエアコンで管理し適切な温度を保っている。	リビングは天井が高く明るく、天井ファンが回っている。エアコン、床暖房や空気清浄機、加湿器などが完備されており、快適な空間が確保されている。廊下の壁面には、利用者と職員が製作した折り紙による季節ごとの花々や行事に合わせた作品が飾られている。利用者はそれぞれが居心地よく日中を過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居前に家族や利用している事業所を訪問し生活の様子をお伺いしている。御本人様や御家族、ケアマネージャーからの情報を収集し共有している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が以前より使用している馴染のある物を居室内に取り入れ利用者が少しでも居心地よく過ごせるように工夫している。生活感を感じて頂ける様に努めている。	入り口には顔写真とともに、一輪挿しが掛けられ造花が飾られている。エアコン、ベッド、洗面台、床頭台が常備され、利用者ごとに馴染みのテレビやラジオ、家族の写真やぬいぐるみ、位牌などが持ち込まれている。毎週、職員によるリネン交換や清掃が行われており、清潔で安心できる環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており安全面を考慮した造りとなっている。職員も利用者様の状態に合わせ見守り、付き添い、手引き歩行を行うなど、1人1人に合わせた対応をしている。又、利用者様に役割を持って頂き、職員と一緒に家事をする等出来る事を活かせるように配慮している。		